

# 製本のススメ

Vol. 210

今年 節分の祭事は各地で行われたようで、福が舞い込んで来てほしいものですね。コロナの患者数は減少傾向ながら、まだまだ気が抜けない日々が続きます。特に地方では医療体制が万全という訳にも行かず、まだまだコロナ対策は続きますね。

今回は**上手な発注**の話し

これから印刷関連業界は繁忙期です。さらに日頃やり慣れない作業も多く発生すると思います。ここで注意しないといけないのは『**いつもと違う**』場合です。仕入先・加工所・印刷所など、普段取引の薄い会社とのやり取りが多く起こり、**お互いの思い込みがすれ違いトラブルになりかねません**。製本加工は多くの場合で最終工程です。その為 加工時間に限りがあり作業を効率よく進めなくてはなりません。その為には「**一目でわかる原稿**」「**わかりやすい刷り本状態**」である事が**何よりも重要です**。

まずは一部抜きを作りましょう。実際の印刷物でページ順になっていれば大変分かりやすく、また扉や折込ページ箇所も理解が早くスムーズです。時折 自社の台割のみを渡される事が有りますが、見慣れない会社の台割表は間違いを誘発します。また外注印刷の際には、**必ず事前に刷り取り等で一部抜きの作成をしておきましょう**。

さて発注側も良く分からない内容を いつもと違う加工所へ説明するので、日頃問われないような内容の質問が来たり、耳慣れない言葉遣いをされたりで勘違いや見込み違いも発生し易くなります。

こんな事例が有ります。「全判に㊦8頁・㊵8頁の面付で印刷」と言われたが、実際は1面付でペラに切り分けないと作業が出来なかった。これでは金額も加工時間も全く変わってしまいますが、確かに表裏8面ずつ印刷されている事には変わりが有りません。これは極端な事例ですが一般的に製本会社では上記のような説明では八折（16頁折）と認識します。つまり**お互いの常識感が違う**のです。この印刷会社では書籍等のページ物は日頃扱っていないのかもしれませんが。或いは担当者の知識不足かもしれません。いずれにせよ希望納期と希望金額には程遠い状態であると推察されます。トラブルなく納期通りに製品が納まるには、次の加工へのバトンタッチを上手に進める事が近道です。面倒でも事前の準備と打ち合わせをしておきましょう。



## Tea break

既にお知らせさせて頂いておりますが、1月請求分より最低基本価格と包装手数料の見直しをさせて頂いております。社内加工賃については4月分請求分（20日×は3月21日・月末×は4月1日）より見直しをさせて頂きます。何卒ご理解を賜りたく存じます。

弊社 HP は [www.isekiseihon.com](http://www.isekiseihon.com)

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本